

第 19 回図書館総合展参加報告

智頭町教育委員会 國岡 厚志

平成 29 年 11 月 7～9 日に横浜市で開催された、第 19 回図書館総合展に参加させていただきました。図書館総合展のフォーラムでは、市町村図書館と学校図書館の連携取組みについて、智頭図書館前田館長補佐が「地域のつながりを活かした学校図書館・公共図書館連携」と題して事例紹介を行いました。

事例紹介では、当町の保育園・小学校・中学校の環境整備から始まり、学校司書配置、智頭図書館との連携強化、そして県立図書館の支援により十分な資料を届けることで、智頭の子どもたちの学びが支えられている様子を、パワーポイントと動画で紹介しました。動画では、小学 2 年生の授業で使う動物図鑑の不足分を、ちづ保育園と中学校から借り、さらに県立図書館へ依頼した資料が、次の日に届く様子を分かり易く伝えられたと思います。

他の自治体の事例紹介では、塩尻市（人口約 7 万人）、新潟市（人口約 80 万人）の取組みが紹介がされました。規模や方法に違いはあっても、「地域の子どもたちのために！」という思いは同じでありましたが、鳥取県のこのシステムがいかに恵まれていることを再認識しました。

また、当町が現在取り組んでいる新図書館建設では、サイン計画フォーラムに参加しました。図書館サインの現状として、「新館建設時や大規模改修時に意識されるだけ」「設計者や建築業者任せ」「開館後に不備が発覚する」「オリジナルは高額でなかなか修理出来ない」「紙ベースの追加で乱雑になる」「以前作られた張り紙は前任者への配慮で変えられない」などの具体的な事例が紹介されました。続いて VR（バーチャルリアリティ）を使用し、サインの有無や位置・大きさで、利用者の目線で分かり易さや使い易さを感じ取ることができました。建設が始まれば、図書館員は日常の業務に加え建設関係の仕事も増え、サインや什器・備品などはどうしても後回しになり、竣工後に不備が発覚することがよくあるので、図書館建設における事務方としての役割をしっかりとしないといけないことを学びました。

フォーラム参加、関連ブース見学では、実際にモノを見て参考となることが多くありましたが、一番の収穫は現在図書館建設中の他の自治体や、公共図書館の方々とのつながりができたことです。このつながりを今後の新図書館建設に活かしていきたいと思います。今回この様な機会を与えて下さった図書館協会の皆様へ、この場を借りてお礼申し上げます。